

令和三年度 〔第一回 適性検査型入試〕

検査Ⅰ

時間 四十五分

受検上の注意

1. 解答用紙に、受検番号・氏名を記入してください。
2. 声を出して読むはいけません。
3. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
方法を誤ると得点になりません。
4. 検査終了後、解答用紙を回収します。

郁文館中学校

〔問題は次のページからです〕

① 次の「文章1」と「文章2」とを読み、あとの問題に答えなさい。

(*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

仕事の大半をロボットが行うようになり、生活に必要な最低限のお金が「生活基本金」として、全国民に支給されるようになった未来の日本。ここでは、仕事をせず生活基本金だけで生活する99%の「消費者」と、仕事をしてお金を稼ぎ、税金を納める1%の「生産者」が暮らしている。そのような社会で、*1職安に勤める目黒奈津と経営者の大塚晴彦のもとに、渋谷圭という高校二年生の少年がやって来た。

「ア勉強をする意味がよく分からなくなったんです」

と*2交通事故少年、改め、依頼人の渋谷くんは言った。

もうすぐ高校卒業で受験を控えているのだけれど、自分の成績では「*3職訓」くらいしか行けそうにない。それだったら今の段階で就職先を探したほうがいいんじゃないか、と思ってネットで調べると、世の中に職安というものがあることを知った。ほかは大体ネット上の対応だったけれど、ここは実物の事務所があると聞いて興味を持って来た。という事だった。

職業につける可能性がほぼ無いけど「職業訓練大学」、略して職訓。

これはわたしの「*4自主返納」と並ぶフシギ日本語のひとつだ。

「なるほど。たしかに今どき職訓に行くよりも、若さと特技を活かして仕事を始める方がいいかもしれないですね」

と大塚さんは頷いた。渋谷くんは大塚さんに事情を説明しながらも、ちらちらとヒーターの方を見ていた。そこに広がっている熱風を受けている*5謎の生物（所長）が気になって仕方ないようだった。

確か右の手首を捻挫して、顔に擦り傷を負ったらしいけれど、その傷はまったく残っていないようだった。もともと大した怪我ではなかったのだろう。普通に考えて、わたしの方がダメージが大きかった気がする。

そんな彼がいま仕事を求めてこの職安に来ている事になんだかにもよつとした感情が押し寄せてくるのを必死で止める。もともと彼の責任でもなく、わたしの責任でもなく、単なる災害みたいなものなのだ。

「では、何か得意なことはありますか」

と大塚さんが尋ねると、

「計算が得意です」

と渋谷くんは自信ありげに答えた。あまりに子供らしい答えにちよつと笑いそうになった。小学校のクラスにひとりはいった気がする。暗算がものすごく得意な男子。円周率を百桁言えるとか、地下鉄の駅の名前を全部言えるとか、そういうのが好きな子が必ずいた。なんでもか知らないけど大体男子だった。

「どのくらい得意なんですか？」

「かなりすごいと思いますよ」

と少年らしい笑顔で言うので、実際に見せてもらうことにした。

〔中略〕

「学校の成績はいいの？」

「いえ。普通ですが」

と聞いて渋谷くんは自分の端末で、教科システムの成績表を見せてくれる。数学がちよつと良いけど、他は確かに「今のままでは職訓くらいしか行けそうにない」というかんじの成績だ。

「とはいえ、この計算力はちよつと外国でも見たことないクラスですね」

と大塚さんは言った。さり気なく自分が海外事情にも精通している事をアピールしている。消費者が海外に行ける機会はずないので、海外を知っている人に日本人は弱い。

「本当ですか!？」

と渋谷くんは嬉しそうに言う。

「では、こちらでその能力を使った仕事を見繕っておきますので、今日のところはご挨拶という事で、もし興味があればまた来ていただけますでしょうか」

「そうですね。ありがとうございます」

と渋谷くんはお礼を言って帰った。

「すごい子でしたね」

とわたしは言うのと、

「ああ。確かにすごいが」

と大塚さんは言う。

「計算力じゃ仕事にはならないな」

「まあ、今ならホジョコンもありますもんね」

とわたしは言った。テレビCMで見ただけで実際に使った事はないんだけど、頭の後ろに大きめのヘアバンドみたいな器具をつけると、計算内容を考えるだけで答えが聞こえてくるらしい。入出力にはちよつとした練習が必要らしいけど。個人で買うにはまだ高い。記憶力の外部化もできるので、業務で使う人は結構いるらしい。

「でも珍しいですね。大塚さんだったら、どんな特技でも何かこじつけの仕事を留意して紹介していただかないですか」

「もちろん案はあるぞ。計算能力はパッと見で伝わるし絵になるから、テレビに出れば人気者になれるだろう」

なるほど、たしかに人気にはなりそうだ。

「で、ある程度知名度が出たら、次に教育界に行く」

「ああいう能力って、他人に教えられるようなもんですか？」

「無理だろうな。だが、そこで知名度を作っておけば、何かの教材に名前を貸す事はできる。頭の悪い人間は、頭の良さといえど計算力か記憶力だと思ってるからな」

なるほど、中学時代のわたしだったら買いそうだ。真面目に将来のための勉強に取り組み始めた頃のわたしは、ネットで怪しげな「画期的な勉強法」を色々試してすべて失敗して、結局*6フユちゃんのようにならないうに普通にこつこつ勉強するのが一番いいと気づいたものだ。

「ほとんど詐欺じゃないですか」

「ああ。だから未成年向けじゃない」

大人ならいいのか。

まあ確かに渋谷くんの成績を見ると、ある程度の努力とある程度の幸運があれば、わたしと同じ県庁の交通課くらいには入れそうな気がする。でも、ああいう部署で「*7責任をとるための人間のストック」をやるためには、経歴が綺麗であることが求められる。ここで変な職安を営む変な男の口車に乗せられては将来のためによくない。

あ、でも、あの子はそのくらいのリスクを背負ってくれてもいいんじゃないかな。

ちよつと黒い感情がもぞもぞと湧いてくる。わたしが理不尽に県庁を退職するはめになったのは、もとはといえはあの渋谷くんの（正確に言えば彼の父親の）納得感のためなのだから、ここでひとつ、わたし達の職安の実績のために、少しくらい経歴を汚してくれてもいいんじゃないだろうか？ そのくらいの埋め合わせがあってもいいんじゃないかな？ ずいぶん不適切な考えである事はわかっているけど、どうしてもそういう気持ちを抑えられなくなってくる。

「ま、ああいう子供は単に勉強に悩んでるだけだろう。計算ができるのになんで成績が上がらないんだろう、イ教育が間違ってるんじゃないか、とか悩んでるんだろう。だったら、計算ができる事を肯定してやれば、後は適当に自分の道を見つけるだろうさ。本当にまた来たら相手してやるがな」

「来ないと思いますか」

「だろうな」

（柞刈湯葉『未来職安』による）

〔注〕

- *1 職安 — 職業安定所。就職を希望する人に仕事を紹介する仕事。
- *2 交通事故少年 — 渋谷くんが一年前、自動運転車にひかれて軽傷を負ったことによる。目黒は以前県庁の交通課で働いていたが、自動運転車の事故被害者を納得させるために、きちんとした経歴の人間に責任を取らせるといふ理由で退職させられていた。
- *3 職訓 — 職業訓練大学の略称。従来の大学教育が卒業後仕事をやる上で役に立っていないという批判から、職業訓練のために新たに設立された大学。しかし、教えられる技術はロボットでも代替可能であるため、設立当初の思惑とは異なり、この時代では職訓を卒業しても就職することは難しい。
- *4 自主返納 — 最低賃金（最低限支払わなくてはいけない給料の額）が「生活基本金」導入前の高い額のままで職安の収入に対して高すぎるため、職安を維持するためには受け取った給料の一部を「自主的」という名目で返さなくてはならないことによる。
- *5 謎の生物 — 普通の生きた猫。この猫が職安の「所長」ということになっている。なお、この世界の猫の多くがロボットである。
- *6 フユちゃん — 目黒奈津の友人。学生時代から成績優秀で、現在はエンジニア（生産者の一つ）として活躍している。
- *7 責任をとるための人間のストック — 県庁の交通課は、自動運転車の事故の責任を取って退職するという仕事のためだけに人間を雇っているの、人間のストック（在庫）と表現している。

文章2

人間は自由に語ることができるか？ これは多くの哲学者が自らに
向けた問いである。

*1 先賢たちは同じ結論に至った。それは、「人間は自由に語ってい
ると信じているときに *2 常套句を語り、常套句を語っているつもり
のときに（しばしば）前代未聞の言を語る」というものである。遠く
*3 孔子、*4 ソクラテスから、近くは *5 ブランシヨ、*6 ラカンに至
るまで教えるところは *7 帰一する。

私も先賢の教えに従って、その教えをここに繰り返す。

それでは、何の進歩も創造もないではないか、といきり立つ方がお
られるかも知れないが、「述べて作らず」（私の作品は先人のコピーで
あって、*8 オリジナルではない）という「*9 祖述者の名乗り」こ
そが *10 作物のオリジナリティを *11 担保すると先賢たちが言っ
ているのだからしかたがない。

私たちは自由に語っているつもりなのに、それほど自由ではない。
これは経験的にたしかなことだ。私たちが自由に操っているつもり
の *12 語法は私たちが主体的に選択したものではない。私たちは「語
法の檻」とでもいうべきもののうちに幽閉されている。多くの人は自
分が「檻」の中で生涯を過ごしたという当の事実さえ知らないまま
に死んでゆく。

「そんなことはない、私は自由に語っている」と言う人は、地球上
の人々がすべて死に絶えて、あなた一人が残された状況を想定してほ

しい。そのとき、あなたは「おや、とうとう私一人になってしまった
のか・・・」とつぶやく。あなたのことを聴き取ってくれる
人はもう地上には一人もいない。だから、どんなデタラメを口走って
も誰からも咎められはしないにもかかわらず、あなたは自分が何を言
っているのかを知るために他人にも通じる言語を語ることからは逃れ
られない。

自分が何を言いたいのかを知るためには「他人にも通じることば」
を語らねばならない。それが「語法の檻」ということである。そして、
「他人にも通じることば」というのは、その定義からして、「誰かが
すでに言ったことば」、「その意味がすでに知られていることば」を組
み合わせることでしか作り出せないのである。

その「檻」の中で私たちができるほとんど唯一の創造的なことは、
自分が何か斬新なことばを語っているつもりなのにすりきれた常套
句を繰り返しているという「*13 病識」を持つこと、その兆候を吟味
することで「私たちを閉じこめているこの檻の構造と機能」について
主題的に *14 考究することである。私はそう思う。

そう考えて、最近アメリカ論を書いてみた。アメリカについて書い
た本ではなく、アメリカについて日本人が語るときにそれと気づかず
に採用している「語法の檻」について書いたのである。常套句を書き連
ねたはずなのだが、ところどころ「何を言っているのかわからない箇
所」が散見されるのが *15 望外の手柄である。

（内田樹『態度が悪くてすみません―内なる「他者」との出会い』による）

〔注〕

- *1 先賢―昔の賢人、賢者のこと。
- *2 常套句―決まり文句。ありふれた表現。
- *3 孔子―古代中国の思想家（紀元前五五―紀元前四七九）。
- *4 ソクラテス―古代ギリシアの哲学者（紀元前四六九頃―紀元前三九九）。
- *5 ブランシヨ―モリス・ブランシヨ（一九〇七―二〇〇三）。フランスの哲学者、作家、批評家。
- *6 ラカン―ジャック・ラカン（一九〇一―一九八二）。フランスの哲学者、精神科医、精神分析家。
- *7 帰一―別々のことがらが同一のものに落ち着くこと。
- *8 オリジナル―自身で独自に作り上げたもの。後の「オリジナリティ」とは独創性のこと。
- *9 祖述者の名乗り―自分は、先人の説を受け継いで述べているのだと宣言すること。
- *10 作物―文学、芸術上の作品。
- *11 担保する―確保する。
- *12 語法―言葉の使い方。言語表現の方法。
- *13 病識―自分が病気であるという自覚。
- *14 考究―深く考えること。
- *15 望外―望んでいた以上の。

〔問題 1〕 ア勉強の意味とありますが、それは **文章 2** によればどのようなことだと考えられますか。 **文章 2** の表現を用いて、五十字以上六十文字以内でまとめなさい。(、や。も字数に数えます。)

〔問題 2〕 イ教育が間違ってるんじゃないかとありますが、渋谷くんがこのように考えているとした場合、その理由としてどのようなことが考えられますか。 **文章 1** と **文章 2** の内容を参考にして、解答らんに合わせて四十字程度で答えなさい。(、や。も字数に数えます。)

〔問題 3〕 下に示すのは、 **文章 1** と **文章 2** を読んだ後の、花子さんと太郎さんのやりとりです。このやりとりを読んだ上であなたの考えを、四百字以上四百四十文字以内で書きなさい。ただし、下の条件と次ページの「きまり」にしたがうこと。

花子 — **文章 1** と **文章 2** を読んで「自由に生きる」ということについて、いろいろと考えさせられました。

太郎 — たしかに、どちらの文章も人間の「不自由」が書かれています。 **文章 1** では「自由」「不自由」といった言葉は使われていませんが、「消費者」も「生産者」もそれぞれに不自由なところが読み取れます。

花子 — **文章 2** からは、私たちが本当の自由を手にするのとても難しいものの、不可能ではないことがわかります。

太郎 — 「不自由について考える」学びが「自由に生きる」ことにつながりそうですね。

条件 次の三段落構成にまとめて書くこと。

- ① 第一段落では、 **文章 1**、 **文章 2** それぞれで述べられている「不自由」についてまとめて (**文章 1** については「消費者」「生産者」どちらかの不自由についてまとめればよい)。
- ② 第二段落では、「不自由」であることは、生きる上でどのような問題を引き起こすと思うか、考えを書く。
- ③ 第三段落では、①と②の内容と花子さんたちのやりとりに関連づけて、「自由に生きる」ためには、どのように学ぶ必要があるか、これからの学校生活でどのように学びたいか、考えを書く。

〔きまじ〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます（ますめの下に書いてもかまいません）。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。

〔以下、余白〕

「このページには問題はありません」

「このページには問題はありません」

